

東海道

川崎宿

400年

川崎宿

川崎宿起立400年 プロジェクト記念誌

発行：川崎宿起立400年プロジェクト推進会議

巻頭あいさつ

川崎宿起立400年プロジェクト推進会議 会長 鬼塚 保

昨年、一連の川崎宿起立400年プロジェクトを実施してまいりました。御尽力いただいた皆さまには、深く感謝申し上げます。

令和3年2月に東海道川崎宿起立400年を地域が一体となって盛り上げるため、「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」を設立いたしました。

プロジェクト推進会議が実施した「東海道川崎宿場まつり」や「六郷の渡しまつり」をはじめとする各種イベントがまちに賑わいをもたらし、浮世絵とともに東海道沿道を照らす中間灯の設置は宿場らしい町並みを創出し、また記念切手の発行、横断幕やJR川崎駅自由通路での大型広報物の掲示等により、川崎宿起立400年を多くの方々に知っていただくこととなりました。

様々な取組を行うことにより、それに触れた方々にとって東海道川崎宿の歴史・文化資源を認識する機会となり、大いに魅力を感じていただけたことと思います。

川崎宿起立400年の年は終わりましたが、「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」の取組をきっかけとして、未来に向けたさらなる魅力的なまちを目指し、地域の皆さまとともに川崎宿という貴重な資源を活用したまちづくりを進めてまいりますので、引き続きの御協力をよろしくお願いいたします。



目次

東海道川崎宿 起立～現在～そして未来へ	1
祝！東海道川崎宿起立400年	2・3
川崎宿起立400年プロジェクト推進会議	4
川崎宿起立400年記念プロジェクト	
川崎宿起立400年記念ロゴマーク	5
東海道川崎宿場まつり	6・7
東海道川崎宿「中間灯」	8・9
まちなみ検討プロジェクト	10
広報プロジェクト	11
むかしも、いまも。ひねもすかわさき	12・13
京急大師線 川崎宿400年記念ロゴヘッドマーク車両	14
東海道川崎宿スタンプラリー2023秋	15・16
第35回東海道シンポジウム2023川崎宿 ～むすび つながる 東海道～	17-19
東海道川崎宿起立400年記念 企画展示	20
東海道川崎宿・大師道 御朱印めぐり	21
六郷の渡しまつり2023	22・23
川崎宿起立400年を盛り上げる地域の動き	24・25
記念事業・活動のふりかえり 未来の川崎宿へのメッセージ	26・27
2024 その先へ	28・29
メディアでの紹介	30
賛助金・クラウドファンディング	31
東海道川崎宿を活かした地域活性化 この20年 地域の主な動き	32
加入団体一覧・編集委員からのメッセージ	33

東海道川崎宿 起立～現在～そして未来へ

東海道川崎宿は1623（元和9）年に品川・神奈川両宿場の伝馬負担を軽減するために起立されました。新宿、砂子、久根崎、小土呂の4村で構成され、約1.5kmの間に最盛期の江戸後期には70以上の旅籠が建ち並び、川崎大師への参拝客なども相まって賑わいました。

しかし明治以降、工業化・戦災と戦後の再開発により、宿場の面影はほぼ失われ、宿場町としての記憶も薄れてきていました。

川崎宿に再び光を当て、その歴史文化を活かした地域活性化を謳ったのは、1997（平成9）年の『川崎区づくり白書』でした。2001（平成13）年には東海道宿駅制度400年を記念した「大川崎宿まつり」が開催され、その気運がさらに高まります。

2003（平成15）年、市民提案書『東海道川崎宿2023いきいき作戦』で、川崎宿起立400年の2023年を目標年と定めた様々なプロジェクトが提案されます。以来約20年間、市民団体東海道川崎宿2023が中心となり、行政との協働で様々な取り組みを実現させてきました。2013（平成25）年、歴史文化の学習及び地域活動・地域交流の拠点東海道かわさき宿交流館が、街道筋に開館したのは中でも大きな出来事でした。

※その他これまでの主な取り組みや地域の動き、経緯については巻末の年表をご参照ください。

川崎宿起立400年プロジェクト推進会議は、川崎宿起立400年を地域が一体となって祝い、様々な記念プロジェクトに取り組む為に組織され、地域から134団体が参加しました。本誌は、その取り組みを地域の方々の思いも交えながら記録し、後世に伝える為の記念誌です。

川崎は宿場時代から人を受け入れ、多様な文化を育んできました。これからも川崎が宿場町としての遺伝子を受け継ぎながら発展し、人と文化の交差点として新たな役割を担っていければ幸いです。



江戸時代の東海道川崎宿（左・東海道かわさき宿交流館模型）と現在の姿（右・2023（令和5）年10月1日（日）中間灯点灯式後撮影）

祝！東海道川崎宿

みんなの川崎祭で川崎宿起立400年をお祝い



2023（令和5）年11月5日（日）、みんなの川崎祭の市役所通り会場で川崎宿起立400年を市民とともにお祝いしました。川崎古式消防記念会による木遣り（江戸時代からの伝統的な祝儀歌）を先導役に、和装や川崎宿起立400年記念の法被姿で集まり、市役所通りを練り歩いた後、特設ステージ上で福田紀彦川崎市長、斎藤文夫顧問、鬼塚保会長が祝賀あいさつ。最後は二本締めで祝声を高らかにあげました。



起立400年

川崎市観光協会 会長

川崎宿起立400年プロジェクト推進会議 顧問 斎藤 文夫

2023年、東海道川崎宿は起立400年を迎えました。地域の皆さまが「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」を組織して、川崎宿の歴史と文化をより多くの方に知っていただき、川崎宿への愛着を育てていくために取り組みを進めてまいりました。

「東海道川崎宿場まつり」、「東海道シンポジウム」、「六郷の渡しまつり」等様々なプロジェクトを実施しましたが、中でも東海道沿道の街路灯に浮世絵がデザインされた中間灯を設置したことで、川崎宿があったことを街行く人や来訪される人達に伝え、当時の様子を偲ぶことができるようになりました。

川崎宿起立400年を盛り上げるための取組は、多くの方々の御尽力と御厚志なしには実現できませんでした。改めて心から厚く御礼を申し上げます。

今後も川崎宿に関する取組が発展し、市制100年を迎えた川崎市の魅力が、さらに高まることを祈念いたし、ご挨拶いたします。



川崎商工会議所 会頭

川崎宿起立400年プロジェクト推進会議 顧問 草壁 悟朗

昨年、東海道川崎宿は開設から400年という節目の年を迎えました。

これに合わせて式典や多彩なイベントなどが開催され、多くの方々とともにお祝いできたこと、また、これを機に400年前の川崎に思いを馳せ、歴史や文化に触れていただけたことを大変うれしく思います。

このような事業が展開できましたのも、2021年に川崎宿起立400年プロジェクト推進会議が設立され、この間の鬼塚会長はじめ関係者の皆さまのご尽力の賜物と心より感謝申し上げます。

現在は、当時の面影を見つけることは難しくなりましたが、今回、多くの皆さまのご支援で東海道沿いに行燈に見立てた街灯が設置されるなど、川崎宿というコンテンツを活かしたまちづくりが官民一体となって進められたことは、今後のまちづくりの更なる可能性を感じる取組みであったと思います。

川崎宿起立400年プロジェクトを契機として、更なる地域の活性化が図られるよう川崎商工会議所といたしましても皆さまとともに取り組んでまいります。



川崎市長 福田 紀彦

川崎宿起立400年プロジェクトの御成功、おめでとうございます。

令和3年に、「人と人」、「歴史と未来」をつなぐ意味で「結ぶ」を活動のキーワードに、「川崎宿起立400年プロジェクト推進会議」が設立され、多くの企業・団体の皆さまに参画していただきました。行灯を思わせる中間灯の設置、宿場の歴史を知っていただくためのお祭りの開催、六郷の渡しにちなんだイベントなどの取組により、川崎宿起立400年を記念した宿場らしい景観やにぎわいが創出されました。

数々の取組を実施するためには、何度も会議を重ね、多くのハードルをクリアした上で実現にこぎつけたと伺っております。皆さまの御尽力により、東海道川崎宿という川崎市の貴重な歴史・文化の資産を市内外に向けて発信していただきましたことに深く感謝申し上げます。

本年は川崎市制100周年の年を迎えます。本市といたしましても昨年の川崎宿起立400年を契機として、更なる魅力あふれる川崎のまちを目指し、地域の皆さまとともに取り組んでまいります。



川崎宿起立400年プロジェクト推進会議

町内会・商店街・企業・市民団体等の地域の各団体が集まり、記念イベントやプロジェクトで川崎宿起立400年を盛り上げるため、2021（令和3）年2月5日（金）に設立された組織です。

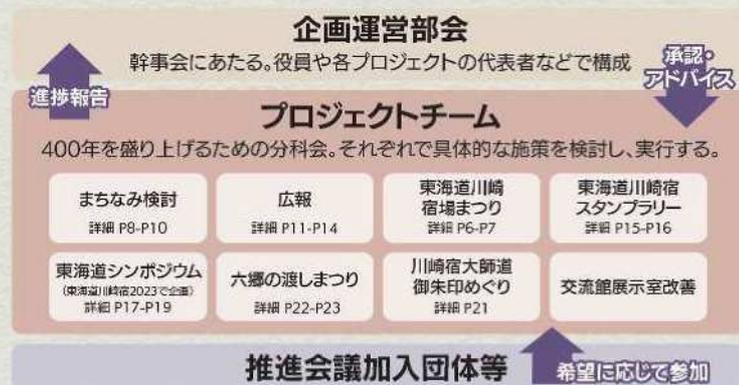


目指す ゴール

1. 東海道川崎宿起立400年記念事業を短期的な祝祭・式典の一連として捉えるのではなく、この先の川崎宿関連地域の価値向上や発展につなげる。
2. 歴史を振り返り川崎の魅力を再発見するとともに、魅力を可能性に変えるまちづくりとして、地域の人々や企業・団体が主体となって「参加」し、「連携」し、「実現」し、「自走」していく事業にする。
3. 東海道川崎宿起立400年を契機に、川崎の魅力を知り、全国・全世界から実際に訪れてもらい、好きになってもらう。

組織と主なプロジェクト

具体的な取り組みごとにプロジェクトチームを設置し、諸団体の調整・連携を図りました。また、役員や各プロジェクトの代表などで構成する「企画運営部会」を設け、全体の進行管理、必要な事項の承認・協議を進めました。



加入団体

町内会・自治会、商店街、商店・宿泊施設、民間企業、メディア、寺社、社団法人・財団法人など、地域から134団体にご加入いただきました。（団体名リストは巻末参照）

役員・事務局

会長 鬼塚保（川崎駅広域商店街連合会）
副会長 池田ハルミ（東海道川崎宿2023）、石渡稔也（川崎区中央地区連合町内会）、木村教義（川崎駅広域商店街連合会）、西井健（川崎新宿青年会）、三藤哲也（川崎市中央観光協会）
会計 濱館幸二（東海道かわさき宿交流館） **会計監査** 森明弘（川崎大師観光協会）、吉原弘和（福来屋酒店）
顧問 斎藤文夫（川崎市観光協会）、草壁悟朗（川崎商工会議所） **事務局** 川崎区役所地域振興課

川崎宿起立400年記念ロゴマーク

「川崎宿起立400年プロジェクト」の第1弾として、デザイン公募による記念ロゴマークを制定しました。

● ロゴマークの選考過程とデザイン

応募総数145作品から、推進会議による審査で絞られた最終候補4作品について、2021（令和3）年3月3日（水）～19日（金）にかけてWEB上で一般投票を行い、全1,168票中622票を獲得した、岡山県在住、是澤義隆さんの作品が採用されました。

宿場と街道、渡船と多摩川などを描き、川崎宿の当時の風景と賑わいを表現したロゴで、「東海道や川崎宿の特徴がたくさん盛り込まれていること」「レトロでモダンなデザイン」などが投票者に評価されました。



● 川崎のまちに溢れた!ロゴマーク

制定されたロゴマークは、推進会議に関連する様々なイベントや広報のポスター、チラシなどに活用された他、事務局への申請のみで使用できる事としたことでグッズ使用やHP・メディア等への露出も増え「東海道川崎宿起立400年」を広く周知することができました。

JR川崎駅の壁面広告、街道及び周辺に掲出のフラッグ・横断幕などの他、地元アメフトチームのヘルメットや郵便局の配達車両、ヤクルトレディのバッグなどにも登場しています。

※その他、地域でロゴマークが活用された様子は各ページ下部の委員コメント欄やP25「地域の動き」をご覧ください。



川崎市中央観光協会 会長 三藤 哲也

川崎宿起立400年を記念し、様々な取り組みを地元の方々を中心となって実施した事はとても素晴らしく、一市民として大変誇りに思っています。そしてそんな地元の方々に感謝を伝えたいと願い、当社未広庵では、川崎宿起立400年記念菓「多摩川の渡し」を販売いたしました。川崎宿と共に未永くと願っています。



東海道川崎宿場まつり

◆ 記念式典で川崎宿起立400年の年をキックオフ!



川崎宿の総鎮守、稲毛神社（河崎山王社）の神楽殿で記念式典を開催。川崎宿起立400年プロジェクト推進会議の鬼塚保会長、斎藤文夫顧問、福田紀彦川崎市長をはじめ、たくさんの来賓・招待の方々が集まりお祝いをしました。鏡割りで祝い酒が参列者に振る舞われ、ひとみ座乙女文楽によるお祝いの「二人三番叟」が披露された後、東海道川崎宿起立400年を祝う一連のイベントのキックオフを宣言しました。

◆ 第9回東海道川崎宿三角おむすびレシピコンテスト



三角おむすびの発祥が川崎宿だという「御紋おむすび伝説」に基づき、川崎の名物おむすびを生み出そう!のコンセプトで始まったコンテスト。第9回は応募120作品の中から書類、食味などの事前審査を経て選ばれた2作品がまつり会場で販売され、食べた方々の投票によって「塩さば柚子胡椒マヨむすび」が優勝に輝き、ステージで表彰されました。



川崎駅広域商店街連合会 理事 木村 教義

盛りだくさんの催し物が行われ、お店も賑わいました。関係スタッフ、参加者が江戸時代の衣を心に着せて、新しい東海道川崎宿の魅力を伝えることができたと思います。

東海道川崎宿を取り巻く環境は大きく変化しています。工業都市から文化都市に変化していく中で、今後川崎宿がどのように発展し、成長していくのかは、私たちが新たな志を一つにして進むことが大切です。新しい住民が増え、インパウンド客も見据えていかなければなりません。これからは新しいふるさと川崎として、たくさんの人が集える街を目指したいと考えています。

春の陽光が優しく降り注ぐ稲毛神社・稲毛公園にて2023（令和5）年4月22日（土）、「東海道川崎宿場まつり」を前年までの「東海道かわさき宿2023まつり」を発展し、規模・企画ともに拡大した形で開催しました！

各種ステージ、出店や体験ブース、 様々な企画で大盛況！

会場内に並んだテントには様々な飲食店や小物販売、体験ブースが出店し賑わいました。稲毛公園のステージでは、和太鼓、歌や踊り、大道芸や剣舞など様々なパフォーマンスが繰り広げられました。かわさき歴史ガイド協会による川崎宿の史跡をめぐるガイドツアーも会場内から出発した他、祭会場と東海道かわさき宿交流館やホテル緑道などをめぐるスタンプラリーも開催しました。



「外郎売りの口上研究会」小田原宿



東海道提灯祭り付け



「和風曲芸」太平洋



CARAMEL POPCORN COMPANY



フェイスペインティング体験



音遊び体験



「ダンス&ボーカル」Lifesta



川崎区子ども会連合会



「川崎宿400年のうためでたや」大師古民謡保存会



株式会社 東照 代表取締役社長 岩瀬 巨克

川崎宿起立400年プロジェクトに関わられた皆さま大変お疲れさまでした。全てのイベントが終了し、深く安堵しています。

宿場まつりには設営と出店の担当として微力ながら参加させていただきました。

宿場まつりの運営においては設営、窓口、警備業務などでたくさんのボランティアの方にご協力をいただきました。ありがとうございます。またご出店を頂きました方々に御礼申し上げます。

このお祭りが川崎区を代表するイベントとして成長することを願っています。

東海道川崎宿「中間灯」

中間灯整備の概要



川崎宿江戸口（六郷の渡し跡）から川崎宿京口（川崎区小川町内）の区間は「東海道川崎宿」、その先、横浜市鶴見区との境までの区間は「東海道」の中間灯



が整備されています。かつての宿場の存在を広く知らせ、特に夜のまちの雰囲気を一変する物となりました。

東海道かわさき宿交流館 10周年に併せてお披露目

2023（令和5）年10月1日（日）、東海道かわさき宿交流館開館10周年祭りが宗三寺駐車場にて開催されました。会場内の歴史文化ステージで様々なパフォーマンスが披露された後、日没が近づいてきたところで「点灯式」を開催。カウントダウンに合わせ、関係者がステージ上でスイッチを押すと中間灯が一斉に初点灯。大きな歓声があがりました。



中間灯点灯の瞬間



川崎古式消防記念会による木道り



かわさき鬼滅キッズ



お座敷芸（まつ乃家）



JDS子どもベトナム舞踊団

川崎区内の東海道約2.5kmの区間、計120本の街灯に「東海道川崎宿」・「東海道」の中間灯を整備しました。

中間灯の意匠

「東海道川崎宿」の文字は川崎宿の総鎮守、稲毛神社（河崎山王社）の名誉宮司市川緋佐麿氏に揮毫いただきました。背景の総柄には、終わりなく続く波模様に未来永劫への願いが込められてるといふ「青海波」を採用しています。下部の浮世絵は川崎・砂子の里資料館にご協力いただき、川崎宿に関する10点を選び、表題や解説文も入れました。街道筋を歩きながらそれらを順に味わい、宿場時代の川崎の姿を偲ぶことができます。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（保永堂版）歌川広重
川崎宿の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（竹書堂版）歌川広重
広重の「東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟」は、川崎宿の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五 五十三次 川崎】
（鎌倉東照宮）歌川広重
この「東海道五 五十三次 川崎」は、川崎宿の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（三浦屋）歌川広重
江戸時代の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（三浦屋）歌川広重
江戸時代の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【川崎】（旅人東海道）尾形光琳
川崎宿の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。光琳の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（三浦屋）歌川広重
江戸時代の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（三浦屋）歌川広重
江戸時代の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（三浦屋）歌川広重
江戸時代の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（三浦屋）歌川広重
江戸時代の東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



【東海道五拾三次之内 川崎 六郷波舟】
（保永堂版）歌川広重
川崎宿が東海道の船家として開設されたのは天和9年（1628）のことでした。広重の浮世絵には川崎宿の江戸口、波舟、旅人などが描かれています。



株式会社 岩田屋 代表 岩澤 克政

震災などで宿場のまちなみは残っていない中、歴史街道「東海道」の存在をどうやって気付いてもらうかということをもまず考えました。鉄道駅からこんな近くに江戸時代から沢山の旅人が行き交った「道」があることの価値に気づいて欲しい。そんな思いが芽になったのが中間灯事業でした。既存の配線から安全に分岐できる技術、車道からの距離や高さ、出っ張らない構造、安全面や法規制等の条件クリアの為、22回にも及ぶ検討会議を重ねた末に漸く実現にこぎ着ける事が出来ました。中間灯が灯る事で人の流れやお店が増え、街道の趣きや賑わいが生まれる事を願っています。



東海道かわさき宿交流館 館長 青木 茂夫

交流館開館10周年祭りのステージにおいて、中間灯の点灯式を設置にむけてご尽力いただいた関係者の皆さまと共に行えたことにとっても感謝いたしました。交流館が開館した10年前と同様に川崎古式消防記念会の皆様の木遣りで始まり、カウントダウン後に点灯した際には、「東海道川崎宿」の文字と齋藤名誉館長が所有する浮世絵が浮かび上がり、この道が川崎を発展させた東海道であることを示す大きな目印となりました。川崎宿起立400年を迎えた記念の年に設置されたこの中間灯が、これからの街づくりに大きく貢献するものと確信しております。

まちなみ検討プロジェクト

参加メンバー（順不同）

株式会社 岩田屋、株式会社 東照、川崎砂子会協同組合、川崎宿インバウンド研究会、川崎駅広域商店街連合会、川崎新宿青年会、川崎ロータリークラブ、一般社団法人 川崎青年会議所、東海道川崎宿2023、東海道かわさき宿交流館、NPO法人かわさき海のみどりの会、特定非営利活動法人かわさき歴史ガイド協会

川崎宿を観光・まちづくりの資源としたまちなみづくり

「新しいふるさと川崎づくり」を目標とし、街道及び周辺の「景観・まちなみづくり」「案内・誘導の充実」「美化・環境改善」の3テーマを柱に取り組みました。その中で提案「街道筋への照明整備」が東海道川崎宿中間灯の実現につながりました。

市役所通りと東海道の交差点に松を植樹

東海道川崎宿起立400年を記念した松の植樹及び記念碑の建立も実現しました。松は歌川広重の『東海道五十三次』の浮世絵にもしばしば登場する東海道を象徴する植物で、川崎ロータリークラブから寄贈された松の植樹セレモニーが2023（令和5）年6月29日（木）に行われました。



植樹セレモニーの様子



「東海道川崎宿」の石碑と松



東海道川崎宿2023 あらたに 葉子

街道には豊かな文化が継承されていますが、失われたもの、今まさに消えようとするものもたくさんあります。川崎宿は江戸時代の道幅が多く残されているにもかかわらず、街道を行くほとんどの人がその歴史を知りません。

まちなみ検討プロジェクトで実現した中間灯の整備はとても大きな事だったと感じています。「東海道川崎宿」（一部は「東海道」と書かれた灯が一斉に灯ると、歩いている人にもここが東海道であることが一目瞭然です。大きな転換点に居合わせられた事を感謝しています。



川崎ロータリークラブ 元会長 小林 一

川崎宿は東海道第二宿という歴史的には恵まれた条件にありますが、現実のまちなみを見ると往時を思わせるものはほとんどありませんでした。

その中で中間灯をつなげることだけで効果があるのかというのが、最初の疑問でしたが、選別に苦勞するほどの良い浮世絵ができて、まちなみが明るくなり、合わせて昔のことを知るよすがとなりました。

心なしか、沿道のお店やマンションもおしゃれになった気がします。あとは点から線へ、線から面へ「川崎宿風」を広げていくことが必要だと思います。

広報プロジェクト

参加メンバー（順不同）

川崎駅広域商店街連合会、川崎キングスカイフロント東急REIホテル、川崎大師観光協会、川崎日航ホテル、京浜急行電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社 川崎駅、東海道かわさき宿交流館、株式会社藤栗毛、ホテル緑道、ホテルメトロポリタン川崎

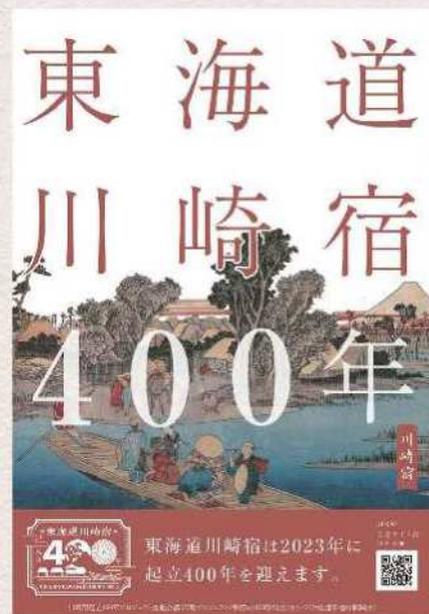
川崎宿起立400年、川崎をより多くの方に 知っていただくための広報

東海道川崎宿起立400年特設HP（kawasakishuku400.jp）を開設し、推進会議の活動状況やプロジェクトの進行状況、イベント情報等を発信した他、推進会議参加団体や関係者向けのニュースレター、イベント開催時期に合わせたプレスリリース等を発行しました。

歌川広重の『東海道五拾三次之内川崎』の浮世絵をベースに「東海道川崎宿400年」を告知するポスター、チラシを大小様々なサイズで約5,000部作成し、鉄道駅や地域の商店、掲示板など様々な場所で掲出・配架を行いました。



川崎宿周辺に掲出されたポスター



ホテルメトロポリタン川崎 営業企画・広報マネージャー 豊田 知子

参画を打診いただいたときは胸が躍りました。広報としての仕事経験を活かしながら、川崎市の内外へどうやってしっかりと伝えていったらよいか、あれこれ思考を巡らせたことを覚えています。

ご参加の皆さまとの相談の上、発信力のある若い世代の女性をメインターゲットとし、デジタルの力も借りながら、川崎宿起立400年を伝えつつ、川崎に来ていただくための告知を目標としながら会議を進めて参りました。

まずはプロジェクトの始動をニュースリリースで発信。その後は様々な情報発信を展開してきました。今後も継続して川崎の魅力を全国、さらには世界にも発信し続けて参りたいと思います。



川崎日航ホテル マーケティング室 室長 宮崎 学

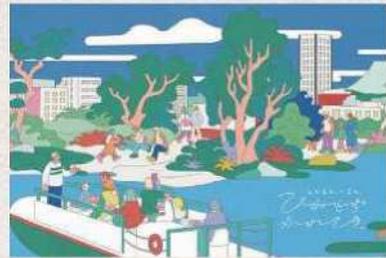
東海道川崎宿の誕生から400年目にあたる記念の年（2023年）に、当ホテルも連携した取り組みに参加をさせていただけたことは大変光栄に思います。特に2023年8月のホテル主催のイベント「夏フェス」で、川崎宿起立400年プロジェクト推進会議による東海道川崎宿「浮世絵刷り版画体験」ブースを会場に設置し、ちらし配布等で地元の多くのゲストに、広く400年事業の認知を広める活動に連携し貢献出来たことは、ホテルの理念でもある地域を活性化させ川崎全体と一緒に盛り上げていく使命に繋がれたと感じています。

これからも地域成長を共に担える役割を発信し続けていきたいと考えております。

むかしも、いまも。ひねもすかわさき

川崎のまちの変化、現在の川崎を表現したビジュアル

先に作成した「東海道川崎宿起立400年ポスター」と対比させ、川崎のまちの変化、現在の川崎を表現するイラストをベースにしたイメージを作成・展開しました。区内各所や京急線全駅へポスターを掲出した他、クリアフォルダ、絵葉書などのグッズも制作しました。



特設HPや動画で若い世代が「ひねもすかわさき」する姿を紹介

川崎に来ていただくターゲットとして新規性、発信力の高い若い女性をターゲットに設定。特設HPで若い女性が川崎のまちを一日体験する様子（モデル谷口蘭さん）を紹介した他、ボーイズグループ「7ORDER」メンバーの諸星翔希さん（川崎出身）と真田佑馬さんが、川崎を巡りながらその魅力を紹介する動画「DAY編」と「NIGHT編」を制作、YouTubeで公開し、多くの方に視聴いただきました。



特設WEBページ「ひねもすかわさき」



動画「DAY編」



動画「NIGHT編」

昔は宿場町、今は繁華街としてたくさんの人が訪れ、出会い、交流し、賑わう川崎。川崎宿の歴史、ショッピング、飲食など「ひねもす(朝から晩まで)」楽しめる川崎をコンセプトとして、アピールしました。

東海道川崎宿

ひねもすかわさきスタンプラリーの開催

2023（令和5）年末の約2か月間、川崎宿・川崎大師エリア周辺でスタンプラリーを開催。飲食店や宿泊施設を利用して集めたスタンプで、対象店舗で利用可能な割引券、ひねもすかわさきオリジナルグッズなどがもらえる企画で、東海道かわさき宿交流館及び参加店舗・施設で計約6,000枚のスタンプシートを配布しました。

参加店舗・施設数：飲食店舗 23 施設（ホテル内飲食施設 4 含む）
宿泊施設 6 施設



スタンプカード

ミニタオル・トートバッグ



ホテル縁道 総支配人 吉岡 明治

6年前から川崎で仕事をするようになり、住民となり、起業する事になりました。理由は川崎の魅力にはまったからです。外から来た身として、まだ知られていない川崎の魅力をもっと発信すれば、私のように、これまで来ていない層も川崎に来てくれるという確信があります。ひねもすかわさきのサイト、動画作成、スタンプラリーと取り組みを行いました。これを機に異業種や同じホテル業の皆様と引き続き連携させて頂き、川崎の魅力の発信を継続する事で、今まで川崎に来られなかった方が来られるようになり川崎のファンになってくれると嬉しいです。



川崎キングスカイフロント東急REIホテル 販売促進部門 服部 未来

ひねもすかわさきのホームページいかがでしょうか? 「あれ?かわさきってこんな街なの?!」と思っただけ、川崎に行きたいなと思ってもらえるようなページを作成しました。

具体的には女性モデルを入れ、川崎で一日を過ごすイメージができるよう心掛けました。動画では、川崎にゆかりのある方に魅力を発信していただきたいという思いから、打ち合わせを重ね、「7ORDER」さんを起用し、写真だけでは伝えきれない川崎の良さを動画でまとめました。グッズの案もたくさん出た中、日常の中で気軽に使えるものを皆で考え制作しましたので、たくさん使っていただきたいです。